

## 韓国大学生訪日団（招へい）の記録

### 1. プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2022)」の一環として、韓国国際交流財団にて選抜された大学生等を招へいし、テーマ「日韓社会・文化への相互理解促進～日韓社会・文化の共通点、相違点及び今後の課題～」の下、各種視察、学校訪問、同世代交流等を通じて、日本に対する理解を深めることにより、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

#### 【参加者】

プレプログラム（オンライン）：韓国の大学生等 19 名

招へい（オフライン）：韓国の大学生等 19 名

#### 【訪問地】

東京都、埼玉県、山梨県、千葉県

### 2. 日程

プレプログラム（オンライン）：

9月17日（土）大学生訪韓団団員との意見交換

10月15日（土）訪日前オリエンテーション

来日プログラム：

10月24日（月）羽田空港より入国、来日時オリエンテーション

10月25日（火）【表敬】外務省、歓迎昼食会、【表敬】駐日韓国文化院

10月26日（水）埼玉県へ移動、【視察・講義】高麗神社、山梨県へ移動

10月27日（木）【視察】浅川伯教・巧兄弟資料館、

【視察】山梨県立リニア見学センター、東京へ移動

10月28日（金）【交流】神田外語大学

10月29日（土）【交流】大学生訪韓団団員とのグループ別プロジェクト準備及び  
発表、成果報告会

10月30日（日）羽田空港より出国

3. プログラム記録写真（訪問地：東京都、埼玉県、山梨県、千葉県）



10月25日【表敬・講義】外務省



10月25日【表敬・講義】駐日韓国文化院



10月26日【視察・講義】高麗神社



10月27日【視察】浅川伯教・巧兄弟資料館



10月27日【視察】山梨県立リニア見学センター



10月28日【学校訪問】神田外語大学



10月29日【交流】大学生訪韓団参加者とのグループ別プロジェクト準備



10月29日【交流】大学生訪韓団参加者とのグループ別プロジェクト発表

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 韓国 学生

国境とコロナを乗り越えて訪問した日本は私の進路についての視野を広げてくれました。4年生になるまで漠然と専攻の勉強ばかりしていた私にとって今回の訪日経験は「もっと大きい夢を持ってみなさい」という大きなメッセージを与えてくれ、日韓両国の未来志向的な関係発展に寄与できる人になりたいという情熱が生まれました。

##### ◆ 韓国 学生

今回の訪日を通じて、漠然とした「日韓関係は良くない」という認識をあらためる必要があると思いました。実際に日本で過ごしてみて友好的な方が多く、韓国に対して関心や愛情をもって言葉をかけてくれる方もいました。私たちだけでなく日本にも友好的な関係を築いていこうとしている方がたくさんいるということを知ることができました。

##### ◆ 韓国 学生

若い世代の相互交流の増加と相手国への関心が高まったことにより、長い間続いてきた両国間の葛藤にも終着点が見えてきたような気がしました。この繋がりが切れることなく、今後も続いていくようにすることが私たちの役割だと思いました。

#### 5. 受入れ側の感想（抜粋）

##### ◆ 神田外語大学学生

国は違うけれど、言葉が通じるだけでこんなにも深く分かり合えるものなのかと感動しました。お互いに両国の文化に興味を持ち勉強しているからこそその相互理解ではありましたが、これから先もっと多くの方がお互いに惹かれあってより良い日韓関係が築いていけるようになればと思いました。

##### ◆ 高麗神社関係者

これまでたくさんの皆様へ当社の由緒、歴史をお伝えしてきましたが、日本史においても、韓国史においても、あるいは日韓交流史においてもメインストリームではないためか、どう



